

北海道グリーンファンドの取り組み

NPO法人 北海道グリーンファンド
<http://www.hkgreenfund.jp/>

© NPO法人北海道グリーンファンド



北海道グリーンファンドは
 地域、市民の参加をいただきながら
 地球温暖化防止に取り組んでいます。

- ・設立 1999年7月(NPO法人認証 2000年11月)
- ・員数 約1,150人
- ・理事長 杉山さかゑ
- ・運営体制 理事10人、監事2人
スタッフ 21人(HGFグループ合計)
- ・主な事業
 1. グリーン電気料金制度
 2. 省エネルギー・再生可能エネルギーの普及事業
 3. 市民風力発電所による発電事業
 4. グリーン電力等環境価値の取引仲介事業
 5. 環境エネルギー分野における政策提言
 6. その他

株式会社市民風力発電(CWP)

- ・設立 2001年2月
- ・資本金 1億2,250万円(含む資本準備金 1,150万円)
- ・役員 代表取締役 船木 亨 他取締役 3名
- ・株主 (筆頭株主)NPO法人北海道グリーンファンド、他40F理事を中心に個人68名、法人2団体
- ・所在地 <札幌> 〒060-0081 札幌市中央区南1条西7丁目 出雲ビル3階
TEL.011-280-1950 FAX.011-280-1871
<東京> 〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-3-20 船石山アネックス206
TEL.03-5405-2108 FAX.03-5405-2857
<http://www.cwp.co.jp>

株式会社自然エネルギー市民ファンド(JGF)

- ・設立 2003年2月
- ・資本金 1,000万円
- ・役員 代表取締役 船木 亨 他取締役 3名
- ・株主 有限責任中間法人自然エネルギー市民基金
(北海道グリーンファンドとNPO法人環境エネルギー政策研究所で設立)
- ・所在地 〒164-0001 東京都中野区中野4-7-3 TEL.03-5318-3030 FAX.03-5318-3430
<http://www.greenfund.jp/>
- ・第二種金融商品取引業 関東財務局長(金商)第181号

株式会社
市民風力発電

株式会社
自然エネルギー市民ファンド

NPO法人
北海道グリーンファンド

- ・事業開発
・運転・保守管理、運営
- ・市民風力ファンド組成
・出資募集、運用・管理
- ・事業企画
・普及啓発

事業化支援

市民風車の事業推進体制



グリーン電気料金システム (寄付スキームによる市民ファンド)

グリーン電気料金制度仕組み



- 電気料金の支払方法
北海道グリーンファンドが、通常の電気料金に5%を上乗せした料金を会員の通帳口座から引き落とす。
⇒5%分の寄付を頂いた上で北電に料金を支払う。
- 一石二鳥のシステム
省エネルギーと自然エネルギー普及エネルギーの普及という地球環境の課題を、市民が個人レベルで同時に貢献できる。

地球にやさしい電気屋さん 省エネ電球モニター220キャンペーン

白熱灯の寿命の8倍
消費電力も1/5



電球型蛍光灯ランプ(省エネ電球)



- ・220世帯に省エネ電球を配布
- ・町の電気屋さんとNPOが地球温暖化防止に向け協力。

自然エネルギー・省エネルギー普及啓発事業

身近な自然エネルギー、
だれでもできる省エネルギー
体験・実験・発見のセミナーを開催。



実験キットを使って楽しく

市民出資型風力発電事業 (出資スキームによる市民ファンド)

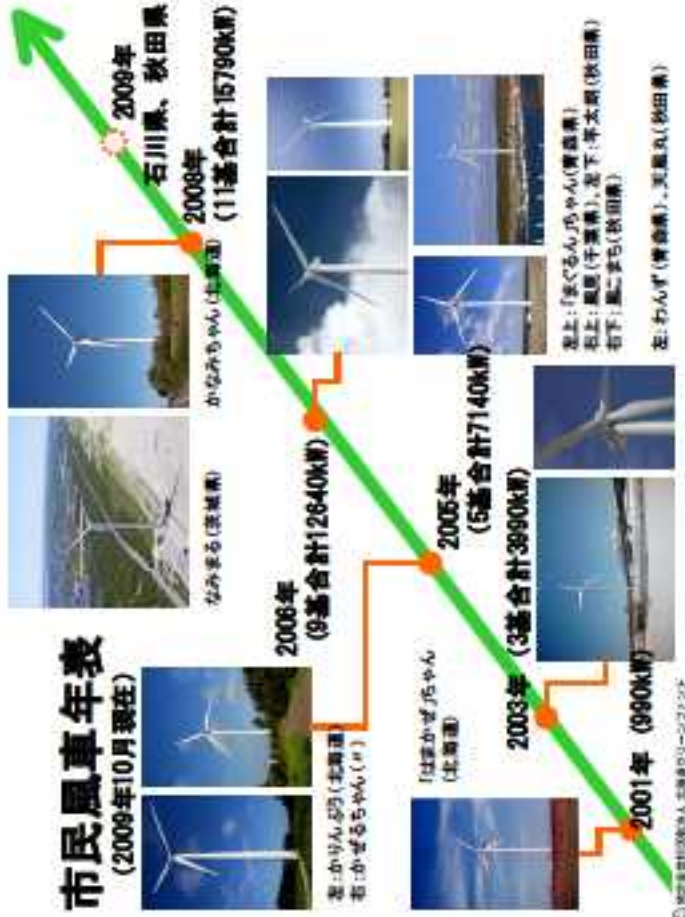
- ・市民風車とは
 - 市民の出資などによる参加で取り組まれている風力発電事業
 - ・ デンマーク、ドイツ等での主な事業形態
 - ・ デンマークの風車は約90%が個人又は組合所有
- ・ 意義と効果
 - 市民からの参加を通して環境エネルギー問題への意識啓発が図られるとともに、自然エネルギーへの社会の関心が広がり、導入促進に貢献する
 - 地域に存在する未利用な自然エネルギーを、地域住民の手で地域のために活かす事業であり、持続可能な社会形成に貢献する



市民出資型風力発電事業 全国11ヶ所 稼働中！

市民風車年表

(2009年10月現在)



② 2009年10月現在、市民風車リーディング

笑顔が集う「市民風車」

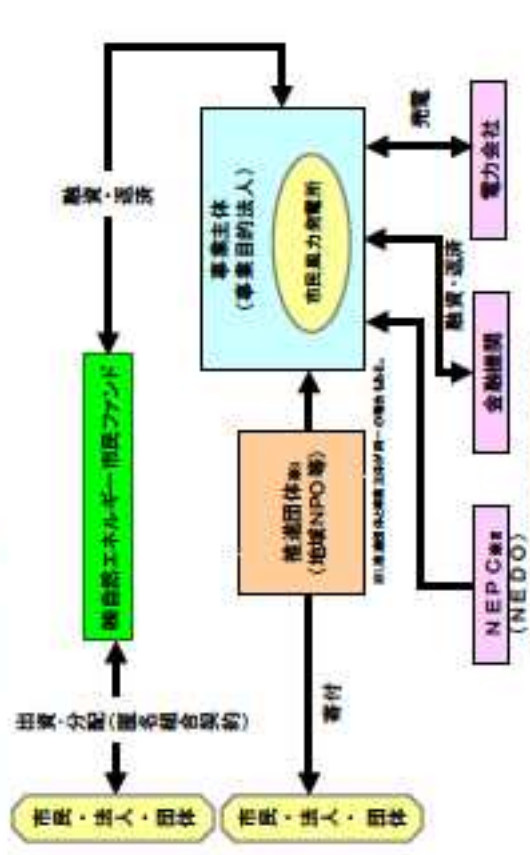
子供の未来にプレゼント
 市民風車・石狩オーブニングイベント
 『風が奏でる音楽祭』(2005.6.18)
 私の風車、ステキでしょ
 * 風車の電氣を使った日本で初めての
 自然エネルギーライブ!
 名付け親による久喜玉祭り!
 庄野風代さんのステージ
 900人の市民が集まりました

過去の分配実績と出資状況

- 『はまかぜちゃん』
 ・ 8期分で、一口50万円に對し、25万円602円を積立分配
 ・ 天風丸
- 『わんず』
 ・ 6期分で、一口80万円に對し、30万円14円を積立分配
- 『かぜちゃん』
 ・ 6期分で、一口10万円に對し、4万2099円を積立分配
- 『かぜちゃん』
 ・ 4期分で、一口50万円に對し、12万円807円を積立分配
- 『かぜちゃん』
 ・ 4期分で、一口50万円に對し、12万円640円を積立分配

基金名称	募集総額	分配総額	未分配額	投資先	投資額	投資割合	投資先	投資額	投資割合	投資先	投資額	投資割合	投資先	投資額	投資割合
『はまかぜちゃん』	1,000,000円	750,000円	250,000円	市民風車発電所	250,000円	25%	市民風車発電所	250,000円	25%	市民風車発電所	250,000円	25%	市民風車発電所	250,000円	25%
『わんず』	1,000,000円	360,000円	640,000円	市民風車発電所	360,000円	36%	市民風車発電所	360,000円	36%	市民風車発電所	360,000円	36%	市民風車発電所	360,000円	36%
『かぜちゃん』	1,000,000円	420,999円	579,001円	市民風車発電所	420,999円	42.1%	市民風車発電所	420,999円	42.1%	市民風車発電所	420,999円	42.1%	市民風車発電所	420,999円	42.1%
『かぜちゃん』	1,000,000円	1,208,007円	208,007円	市民風車発電所	1,208,007円	120.8%	市民風車発電所	1,208,007円	120.8%	市民風車発電所	1,208,007円	120.8%	市民風車発電所	1,208,007円	120.8%

市民風車 事業スキーム



自然エネルギー市民ファンドの基本スキーム



- ※「はまかぜ」「ちゃん」は置換型
- ※「天風丸」「わんず」「かぜるちゃん」「かんばん」がこのスキーム
- ※「市民風車ファンド2006」は、ひとつのファンドから複数の事業者への融資

グリーン電力証書を発行している市民風車



かぜるちゃん(北海道石狩市)

運転開始: 2005年2月
 定格出力: 1500kW
 風車メーカー: ベスタス社製(デンマーク)
 予想発電量: 400万kWh(1000世帯分相当)
 総事業費: 約3億200万円
発行事業者: 北海道電力株式会社
 市民出資: 2億3500万円
 主な販売先: 株式会社カタログハウス、アルバイト情報社、株式会社GEL-Design、株式会社カウネットなど

市民風車の詳細として、かぜるちゃん(北海道石狩市)でもグリーン電力証書を発行しています。

グリーン電力等環境価値の取引仲介事業 市民風車の環境価値(グリーン電力証書)



かぜるちゃん(北海道石狩市)様

運転開始: 2005年2月
 定格出力: 1500kW
 第三者認証機関: グリーンエネルギー認証センター
 およそ1500人の出資・寄付参加により建設・運営



みんなでカーボンオフセット事業(CO2クレジット)

平成20年度経産省補助事業採択事業として実施
 試行実施期間: 2008年11月~2009年3月

- <参加者>
- 太陽光発電・ベレッツストーブ設置者
- <実施内容>
- クレジットの積算・オフセット企画提案・クレジット販売・実施紹介(Web等)



グリーン電力証書を発行している市民風車



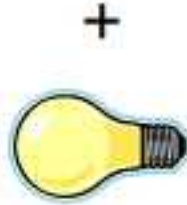
風こまち(秋田県秋田市)

運転開始: 2006年3月
 定格出力: 1500kW
 風車メーカー: RePower社(ドイツ)
 予想発電量: 350万kWh(1000世帯分相当)
 総事業費: 3億2500万円
発行事業者: 北海道電力株式会社
 市民出資: 8億7千万円
(平太朗/秋田市約3基への出資として)
 主な販売先: 小田急電鉄株式会社、株式会社バンダイ、久米繊維工業株式会社、タワールレコード株式会社など

市民風車の詳細として、かぜるちゃん(北海道石狩市)でもグリーン電力証書を発行しています。

グリーン電力証書の仕組み

いつもの電気に「環境価値」をプラスすることで、自然エネルギーを間接的に利用できます。



+



=

電力はいつも通り電力会社から購入

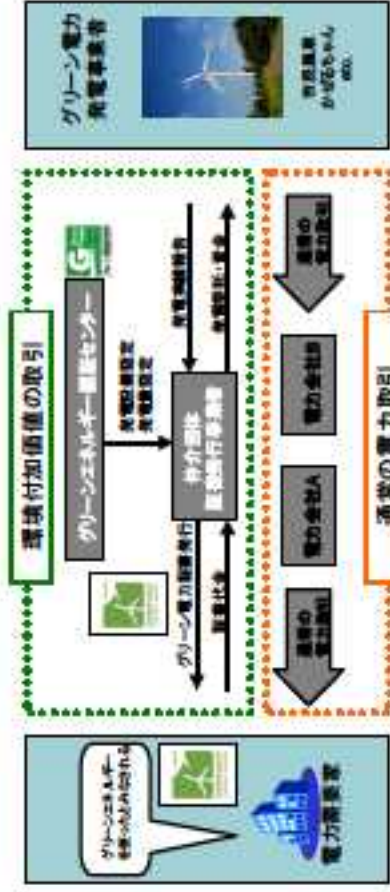
グリーン電力の対価を支払う

証書購入者が自然エネルギーを利用しているとみなせる

グリーン電力証書の仕組み

グリーン電力証書システム

電力需要家が使用電力量に応じてグリーン電力証書を購入し、その資金がグリーン電力発電事業者に提供されることにより、自然エネルギーの普及拡大を支援する仕組み

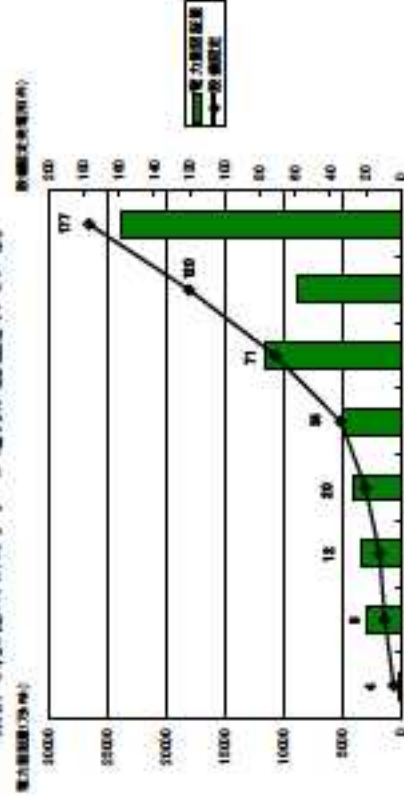


グリーン電力証書の記載内容(例)



グリーン電力認証センターにより認証されたグリーン電力の発電電力量

認証電力量は2008年度は過去最高2億3800万kWhを記録し、累計で約8億kWhのグリーン電力が認証されている。



北海道の事例(1)

事業活動で使用する電力として活用

株式会社北海道アルバイト情報社
事業活動に必要なエネルギー(電力)を、北海道、環境の観点から2008年4月より、石狩市にある市民風車「かぜるちゃん」のグリーン電力証書10万kWh分を購入しています。



株式会社北海道アルバイト情報社

全社で利用する電力の4%分が
風力発電によってまかなわれた。



年間約48トンの二酸化炭素を削減。

北海道の事例(3)

コミュニティラジオ、NPO活動



FMアップル(放送に必要な電力)

「モイレヒダマリ」
樹木&環境マップ、活動

北海道の事例(2)

商品の付加価値として活用

容器成型に使う電力(3kWh/個)をまかなうため、グリーン電力証書を取得。グリーン電力を使用した新シリーズを2009年2月より発売中。



GEL-COOL PLUS

GEL-COOL(粘着付着型付着器)は、こだわりのマイドインHONKABO(粘着器)から、つくる時の電力も、北海道のみを呼びました。北海道石狩市にある市民風車「かぜるちゃん」でつくられた「グリーン電力」です。

株式会社GEL-Design

北海道大学の研究開発の事業を継承し、粘着器「ジェル」の事業には従事する研究開発者「ベンチャー企業」のスキルに関する既知の技術力を活かした製品、事業を展開しています。



ウェブサイトでグリーン電力をPR
http://www.gel-cool.com/ja/index.php

北海道の事例(4)

事業活動での取り組み(道路工事)

大同舗道株式会社

本年度受注した6件の工事(北海道開発局発注)において、グリーン電力を利用し、現場のイメージアップや環境負荷低減に取り組んでいます。工事期間中、6つの仮設現場事務所で使われる「蛍光灯・パソコン・コピー機等」の総消費電力「14639kWh」の48%をグリーン電力化(証書購入)することで、電力由来のCO2発生量が4.8%削減されます。

■利用する工事名
一般国道451号新十津川町橋上外一連工事(新十津川町)
一般国道274号清水沢町牛飼沢外工事(清水町)
一般国道275号札幌市東区南平緑地工事(札幌市)
一般国道277号八雲町旭川線道路修外一連工事(八雲町)
道央支庁道庁管内西野町修繕工事(当別町)
一般国道230号札幌市石山通電線共同架設工事(札幌市) 1000kWh
計7000kWh



グリーン電力証書の活用事例

◆商品の付加価値として活用

容器成型に使う電力(3kWh/個)をまかなうため、グリーン電力証書を取得。
グリーン電力証書を使用した新シリーズを2009年2月より発売中。



GEL-COOL PLUS
株式会社GEL-Design

◆イベントでの活用



さっぽろホワイトイルミネーション

◆サービス提供時に活用



FMアップル

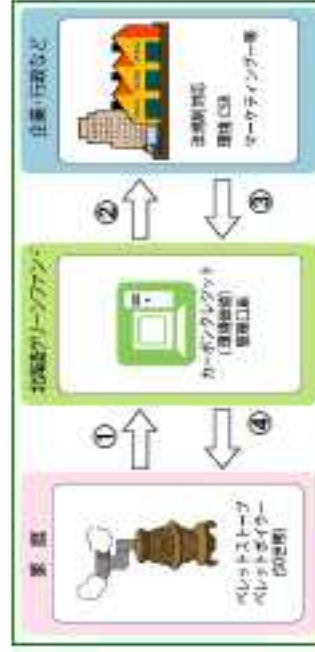
「みんなでカーボンオフセット」とは

地域の家庭で行われた自然エネルギー導入によるCO2削減量を評価して、環境価値として取引を行うという仕組みです。

- ★「自然エネルギー」を使って環境に少しでも良いことをしたい」というご家庭を応援
- ★地域で削減したCO2の環境価値でカーボンオフセットできる機会を事業者に提供
- そして地域社会全体でCO2を削減していく...そんな新しい仕組みを目指しています。



事業スキーム図



① 発電でペレットストーブ(約1000kWh/年)やバイオガス(約1000kWh/年)を北海道グリーンファンに販売する。
② 北海道グリーンファンが削減したCO2をカーボンクレジットとして、企業・行政などに一時的に売却し、企業・行政などに提供する。
③ 企業・行政はCO2削減目標を達成、カーボンクレジットを購入し削減に成功して削減を証明。
④ 削減したCO2削減目標を達成し、削減したCO2をグリーンファンに売却して削減を証明。
*カーボンクレジットは削減目標を達成し、削減したCO2をグリーンファンに売却して削減を証明。

自治体

大通公園において実施されている冬のイベントにおいて、従来から取り組まれているリユース食器、木質ペレットストーブの使用からさらに一歩進んだ環境配慮としてカーボンオフセットによるブース運営を支援。



本取り組みについて南幌町に分かりやすく訴求するパネル作成についても支援し、マスク等に大きく取り上げられるなど注目を集めた。

本町とエコブースで使用する電気・ガス・灯油から排出するCO2(4.5トン)をオフセット

自然エネルギー機器販売会社

夏期はバイオディーゼルの燃料、冬期は軽油を使用している社用車に対して、軽油使用に伴うCO2排出をオフセットすることにより、社用車のカーボンニュートラルを実現。一歩進んだ環境配慮活動として支援した。



PR用ステッカー



太陽光発電装置、ペレットストーブ等の機器販売・施工を行っている企業の、事業活動における環境配慮に対する支援を支援。

冬季の軽油使用時に発生するCO2を5トンをオフセット

飲食店 (café)

パレンタインデー向けのカーボンオフセットチョコレートの商品企画を支援。環境配慮がオフセットだけにとどまらないように、カカオ豆の生産地である西アフリカへの寄付とセットで、総合的な環境配慮商品とした。



本取組の履修について、ユーザーに分かりやすく新設するコミュニケーションツール（説明カード）の作成を支援。



家庭から出るCO2を1日分(5kg)オフセット+西アフリカへ寄付

みんなでカーボンオフセット 試行実施

緑洲啓業 平成20年度環境省自然環境部主催「環境意識向上プロジェクト」試行事業

- 2008年7月採択
- 2008年11月 試行実施参加者募集・・・合計36世帯
太陽光発電 14世帯
(対象:2008/10~12の自家消費電力)
ペレットストーブ 22世帯
(対象:2008/12、2009/1のペレット消費量)
- 2008年11月~2009年3月
札幌市、北海道運搬プロジェクトなど
クレジットを販売(10件)



- クレジット提供量 19.5トン
- クレジット購入量 18.5トン



今後のビジョン

①市民風車をもっとたくさん広げていく

たくさんの方の地域の市長・行政とネットワークを広げ、環境と利益をみんなで見つけよう！
仕組みをひろげていく

②風車以外の自然エネルギー事業を地域で創る

太陽光・太陽熱、木質バイオマス、バイオガス、小水力、ヒートポンプなど
・雇用と地域ブランドの創出による地域活性化と地球温暖化対策の促進

③電力・エネルギーを選んで買える仕組みをつくる

グリーン価値の評価と取引のスキーム(成果が目に見える、社会から認められる)
・エネルギーの選択=未来の選択

④ローカルなお金の流れを広げる

「当事者を」増やしていく
(市民投資市場を拡大し一時的可能な社会へ)
・グローバルな金融の流れをローカルに引き戻す
・金融商品としての多様化

